



帝京大学小学校だより

帝京大学小学校

キャリアパスポートデーの意義

帝京大学小学校 校長 石井 卓之

学習指導要領は概ね10年に1度変わり、その時代に必要な教育の方向性が示されますが、今回改訂された内容の一つに「キャリア教育の充実」があります。帝京大学小学校で9月15日(水)に実施した「キャリアパスポートデー」は、学びのゴールでもある職業の多様性に触れ、働くことについて考える新たな取り組みの一つです。



2014年に策定されたフィンランドの Transversal Competences (日本では学習指導要領)には、アントレプレナーシップ教育が明記されています。起業家教育と訳されることが多いですが、私は学校教育で身に付けた資質や能力を発揮して「なりたい自分になる」という目標に向かって課題解決や自己決定など、もてる力を発揮するよい実践の場の一つだととらえています。また、世界的に解決を迫られているSDGsについても考えることができます。さらに、教科横断的な内容であるので、STEAM教育にもつながります。キャリアパスポートデーの内容をチーム帝京小で進化・発展させていくことで、日本版アントレプレ

ナーシップ教育を創り上げたいと考えています。

この取組に着手したのは2年前の公立学校時代です。3年生になると中学校受験のために通塾が増える実態がありました。受験勉強の過程には、目標をもって計画的に学習に取り組むことや諦めずに粘り強く取り組む態度を育成することなどのプラス面があると思っています。しかし一方、受験科目でない授業に対する姿勢や集中力に温度差があり、問題があると感じていました。そこで、学校での学びが単なる勉強ではなく、将来自分がなりたい自分になるための基礎づくりをしていることに気付いたりいろいろな職業の方と実際に触れ合うことを通して仕事の面白さややりがいに触れるきっかけとなったりするように「学校キッズニア」ができないかと考えました。今回の取組は、その帝京大学小学校バージョンです。

多様な企業に協力依頼をし、学年に合わせた内容調整を図るためには、学校だけの力ではできません。そこで、大学に予算化をしてもらい広告会社に企画・運営のサポートを依頼しました。今後は体験型を基にしながらも問題解決学習へと進めていき、卒業時には大学の大会場で研究発表会をしてみたいと夢を描いています。

いじめ対策・学校生活アンケートを通して見えてきた児童の姿

さいきん、がっこうにくるのが、たのしい。	
さいきん、じぶんのもちものが、なくなっていない。	
さいきん、おなじぐねんのともだちとのあいだに、いやだなとおもうでことはない。	
さいきん、としうえのともだちとのあいだに、いやだなとおもうでことはない。	
さいきん、なにこにもやるきがもてる。	
さいきん、がっこうに いきたくないとおもったことはない。	

本校では月に一度、学校生活アンケートを実施しています(アンケートは左の表です)。この中で「学びへの意欲」「持ち物の紛失」「友だち関係」「他学年との関わり」「物事へのやる気」「学校へ向かう気持ち」について該当部分をチェックします。今回少なかった項目(6月~7月)は「意欲」「友だち関係」「やる気」でした。

「意欲」「やる気」については習い事や勉強が忙しいことや寝不足が原因と回答しています。生活についてご家庭でも話題にさせていただければ幸いです。

「友だち関係」については友だちとのトラブルをあげています。児童間のトラブルについては教員もよく話を聞き、解決していますが、悩みを抱えたままの児童もいるようです。本校にはスクールカウンセラーがおりますのでご活用いただくと解決の一助となります。カウンセリングを利用する児童や保護者の方も増えてきています。

学校では今後も、児童が心身ともに健康で安全に日々の生活を送れるように見守っていきます。

生活指導部より